

日本移民 108 周年 開拓先亡者慰霊法要 6 月 18 日

6 月 21 日付 ニッケイ新聞より

最初の移民船「笠戸丸」がサントス港に到着してから 108 年——朝から日伯司牧協会によるサンゴンサーロ教会での慰霊ミサ、県連主催の先没者慰霊碑前の法要に続き、午後からブラジル日本文化福祉協会（呉屋春美会長）とブラジル仏教連合会（コレイア教伯会長）による「開拓者先亡者追悼法要」が同大講堂で行われた。今年は 18 日が週末土曜日だったこともあり、何れの行事も例年より若干多めの参加者となった。

日本移民 108 周年 県連鮎際開拓戦亡者慰霊法要



焼香に参列する関係者

移民 108 周年の節目を迎え、ブラジル日本都道府県人会連合会（山田康夫会長）の主催する『日本移民開拓先亡者慰霊祭』が 18 日午前 10 時半より、聖市イビラプエラ公園の慰霊碑前で行われた。中前隆博在聖総領事をはじめ、羽藤譲二聖州議、各県人会代表者や日系団体関係者など約 90 人余りが参席し、先人の遺徳を偲んだ。

慰霊碑前には 39 県人会が持参した過去帳が並べられ、川合昭県連慰霊碑委員長が司会進行。ブラジル仏教連合会の尾畑文正前会長が今年も導師を勤め、焼香とともに式典が始まった。

挨拶に立った山田会長は、「190 万人とも言われる日系社会の今日があるのは、先人たちの大変な苦勞の賜物だ。過酷なコロノ生活で、志を果たせず道半ばで亡くなった先人たちの思いは一言では表せない。移民の日は、先人たちに思いを馳せ、追悼を表す日だ」と感謝を込めた。

一方で、「世代交代が進むに連れ、日本に対する意識が希薄化している。四世に至っては混血化が 60% に達しているという。日伯の交流をさらに強め、我々が日系社会の今後を考えていかなければならない」として来場者に力強く語った。

続いて、尾畑導師ら 9 人の僧侶によって読経が行われる中、出席者による焼香が粛々と行われた。中には、子連れの出席者も見られ、各々が先人の勞苦に想いを馳せていた。

108 年目の移民の日しめやかに＝文協で開拓先没者慰霊法要＝

「煩惱や数珠と同じ数。もう一周？」

文協での追悼法要には県人会や日系団体代表者らを中心に約200人が参列し、先人に感謝の念をささげた。在聖総領時間やJICA、援協、県連、釈尊讃合会、ブラジル仏教婦人連盟など多数の団体が後援した。

式典は午後2時に始まり、釈尊讃仰会の佐藤雅江会長による挨拶の後、美和会、深山会による琴や尺八の演奏が流れる中、茶道裏千家ブラジルセンターが献茶を、ブラジル生け花協会が献花した。

続いて尾畑文正導師、諸僧、稚児らが会場後部から厳かに入場し、三帰依文復唱、焼香を行った。尾畑導師は挨拶で「仏教の宗派に関係なく一堂に会し、こうして供養の誠を捧げることができてありがたい。これからも続けていきたい」と先亡者への苦勞と参加者へ感謝した。

仏教連合会のコレイア教伯会長は、「煩惱の数と、数珠の珠数の基本は108です。そして今年は移民108周年。私たちはこの『数珠』を一周しましたが、もう一周できるでしょうか？ この一周の間に先亡者の方々は、数々の苦難を乗り越えてきました。先亡者に感謝しつつ、更なるお祈りの精進を誓いましょう」と先亡者への感謝と、今後の日系社会の発展を祈願した。

呉屋文協会長、中前隆博在聖総領事、JICAの那須隆一所長、「移民の祖」水野龍の息子・龍三郎氏などに加え、共催・後援団体の代表者らもあいさつし、先人の苦勞と貢献に感謝すると共に、日系社会の発展に努力することを誓い、祭壇に手を合わせた。

諸僧による読経が行われる中、参拝者らが焼香を行った。



法要で挨拶する尾畑導師

移民の日ミサ＝サンゴンサーロ教会で肅々と＝

「神様のご加護が日系社会に」



ミサに列席し、祈りを捧げる皆さん

今年も日本移民108年記念ミサが18日午前8時から、聖市のサンゴンサーロ教会で肅々と行われ、日系団体代表やカトリック信者ら約80人が参列した。「日系社会およびブラジル社会に貢献された先駆者の遺徳に敬意を表し、私どもが彼らの模範に倣い、勇気と希望のうちに明日の良き社会建設への志を新たにしましょう」と開会が呼びかけられた。

県連、文協、援協、商議所ら団体代表者10人は共同祈願の中で、「それぞれの国の統治者が利己主義から解放され、国民の幸せのために尽くされるよう、切なる祈りを神にお捧げします」「我々を始め、社会の人が自己のアイデンティティを失うことなく、しかも他文化への尊敬と受容をもって、私たちの子弟の教育を大切にし、明日の良き社会建設に貢献することができますようにお祈りします」などと唱えた。

ドイツ系のフレイ・アレシオ神父が日ポ両語で司式司祭を務め、「ブラジルは今、大きな問題を抱えています。よき社会を建設するために皆で力を合わせましょう。神様のご加護がいつまでに日系社会にありますように」と祈った。

ミサの後には、聖母婦人会からカフェ・ダ・マニャンが提供された。参列者の一人、牧山きみ代さん（69、アラサツバ出身、二世）は「結婚する前、40年以上前から毎週この教会に通っています。でも移民の日のミサは特別。お父さん、お爺さんらを思い出し、感謝を込めてお祈りしました」と清々しい顔で語った。

聖市で移民 108 周年行事 週末開催でも少ない参列者

• 2016 年 6 月 21 日 サンパウロ新聞



ミサの様子

先人たちの苦勞と足跡を偲び



開拓先亡者慰霊碑前で営まれた仏式法要

ブラジル日本移民108周年を記念した毎年恒例の行事として18日、サンパウロ(聖)市内にあるサンゴンサーロ教会での慰霊ミサ、イビラプエラ公園内開拓先亡者慰霊碑前、リベルダーデ区の文協記念講堂での仏式法要がそれぞれ執り行われた。今年は「移民の日」が土曜日とあって例年以上の参列者が期待

されたが、全体的には昨年の参加者数とほとんど変わらなかった。各行事には中前隆博在聖日本国総領事をはじめ、文協、援協、県連など各日系団体関係者たちが出席。先人たちの苦勞と足跡を偲んだ。

サンゴンサーロ教会ミサ

午前8時から、セントロ区のサンゴンサーロ教会で先亡者慰霊ミサが行われた。

ミサはマルセロ・シルバ神父の説教から始まり、続いて在聖日本国総領事館の関口ひとみ首席領事やサンパウロ日伯援護教会の菊地義治会長ら5人が日本語で、ブラジル日本文化福祉協会の呉屋春美会長ほか5人がポルトガル語でそれぞれ祈りの言葉を述べた。

当日は約 60 人が参列し、厳かな雰囲気の中で肅々とミサは行われた。

毎年参列しているという富弥節子さん(74、2世)は「『移民の日』が来るといつも、両親のことを思い出す。毎年来ているが、いつ来ても感動的」と目を潤わせて話した。

八木静代さん(79、兵庫)は「今年に入り、多くの友人が亡くなったので弔いのために初めて来た。彼らの分もしっかり生きなくては」と述べた。

ミサの後はカフェや軽食が振る舞われ、参列者たちは交流を楽しんだ。

イビラプエラ慰霊碑追悼法要

午前 10 時半からは、ブラジル日本都道府県人会連合会(県連、山田康夫会長)とブラジル仏教連合会(仏連、コレイア教伯会長)共催の「日本移民108周年開拓先亡者慰霊碑追悼法要」が、イビラプエラ公園内の同慰霊碑前で執り行われた。

在聖総領事館の中前総領事、各県人会の代表者や仏連関係者をはじめ、パラナ州クリチバから「移民の父」水野龍氏の息子の龍三郎さん(85)が今年も足を運び、約 90 人が出席した。慰霊碑前には 39 県人会が持参した過去帳が並び、川合昭県連慰霊碑委員長の進行で法要を開始した。

法要では尾畑文正氏が導師を務め、焼香を行った後、「三帰依文」と「敬白文」を読み上げた。尾畑氏は追悼の辞で「命を懸けて現在を築き上げてきた日本人移民。すべての物はずなぎり混在しているが、大きくなりすぎた社会の中ではそれを見失いつつある。本日は心よりお祈り申し上げます」と述べた。

続いて山田会長が「一言で日本人移民を語ることはできないが、今日6月 18 日は志を果たせなかった日本人移民を追悼する日。現在は1世の高齢化や3世、4世の混血が進み、日系社会のあり方を考え直さなければならない。日本社会との交流をより密にし、先人が築き上げてきたものを忘れず、新しい日系社会の外交を生み出していきたい」と追悼の辞を述べた。

読経が続く中、各宗派の代表、来賓、一般参列者の順に焼香が行われ、先亡者と物故者への冥福が祈られた。

文協開拓先亡者追悼大法要



文協での大法要

午後2時からハリベルダーデ区の文協大講堂で慰霊法要が行われ、在聖総領事館の中前総領事はじめ各日系団体の代表者、一般約200人が参列した。

はじめに釈尊賛仰会の佐藤雅江会長が開式の辞を述べ、続いて献茶、献花、献楽が行われた。

各宗の導師入堂の後、尾畑文正導師が焼香し、「先達たちがふるさとを遠く離れ、ブラジルの大地に立ち108年が経ちました。多くの悲しみ、苦しみを乗り越え、現在の日系社会をつくりあげてくれた」と途中、涙で声を詰まらせながら敬白文を読み上げた。

その後、中前総領事ほか、日系団体の代表が追悼の辞を述べた。文協の呉屋会長は「今できることに尽力し、日伯友好のためさらなる努力をすることを霊前に誓います」と述べた。

移民の始祖水野龍の三男、水野龍三郎さんの焼香に続き、来賓や一般参列者が焼香を行った。

尾畑導師のあいさつ、ブラジル仏教連合会のコレイア会長の法話の後、閉会となった。

クリチバ市から参加した水野さんは「父が今生きており、現在の日系社会を見たら、どんなに嬉しかったらと思う。日系社会の発展が父の夢だったから」と亡き父に思いを馳せた。

参列していた石原アランさん(28、3世)は「5年前から来ている。これまでの移民が頑張ってくれたから今の自分があり、感謝している。日系人としての誇りを大切に生きていきたい」と力強く語った。